

## 第2回 加西市子ども・子育て会議 会議録

日時：平成26年1月27日（月）

18時02分～19時54分

場所：加西市役所1階多目的ホール

1. 開会
2. 教育長 挨拶
3. 資料説明
4. 協議

○会長

資料1は、資料2、3を取りまとめてコメントしていただきました。私の印象ですが、割合加西市の場合は安定した家族状況、地域状況となって、そんなに深刻な読み取りはできなかつたと感じます。地域によっては新旧住民等の立場から権利主張が出てくることもありますが、加西市の場合は安定した地域基盤で、穏やかな結果が出てるかなといった印象です。現在の段階で他地域の資料は収集できますか。

○事務局 現時点では近隣市の比較はできていません。

○会長

そのあたりも精力的に収集、チェックしていただき、加西市の位置づけについて我々も理解し、今後の制度設計にどう具申していくか大事なポイントだと思います。副委員長、何か全体の結果を見てコメントございますか。

○副会長

5年前と比較して子育ての不安とかの回答割合を見ますと、改善の傾向が認められると思いますね。これにはどういった具体的な要因があると考えておられますか。

○教育次長

就学前と小学生のアンケートに共通しているところで、経済的な理由というのが大きく下回っています。公共料金等の値下げも含めて、総合的に子育て支援策を市として打ち出しておりますので、そのあたりが大きな要因と思います。

○副会長

保育所の今後の設計を考えていく際に、これまでの取り組みで有効であったものは引き続き進めていくべきだと思い、少しお聞きしました。ありがとうございました。

○会長

これまで感覚的にもうまくいってる場合もあれば、少しこのデータから新しく設計し直さないといけないことも可視化して、緩やかに新しいシステムの構築につなげていけばと思います。

それから、預かり保育については余り利用度がなかったのは意外だったんですが、これについて幼稚園からご意見をいただければと思います。

#### ○A委員

私のところは市内で1園だけの私立幼稚園です。2歳児から5歳児まで約50人ですが、朝7時から夜7時、8時までの受け皿を持っております。お勤めされてる方も私たちの園の中では半数ぐらいですが、夜の7時、8時というのはごく僅かですけれども受け皿はあります。

公立園が実施する以前から、私立園では預かり保育に力を入れていますが、私どもの園では思うほどの利用者は少ないです。幼稚園では長期休業日がありますので春休み、夏休み、冬休みの方が利用者が多いというのが現状です。

#### ○会長

資料1の5頁(6)一時預かり等の利用について、今後利用したいが31%、利用する必要はないが65%あります。一時預かりは幼稚園だけとは限定できないかもしれませんが、先ほどA委員がおっしゃったように「受け皿だけは」という、これ非常に大事な措置だと思うんですね。受け皿だけはきちっと置いとくよというのは、非常に安心。それから季節によっても若干違うかもしれませんが、その辺の柔軟な想定は、加西市としてのインフラ環境になると思います。

#### ○B委員

今の子どもが小学校へ行くまでは自分の手で育てたいという思いがありますので、時間外に預けてまで働きたいというところが私にはなく、時間外でどうこうはあまり考えてないです。

ただ、一度冠婚葬祭でお葬式が入って誰も見ることがないときに、「先生、すみませんけど上の小学生の子もお願いできますか」と言ったら、「いいですよ」と言っていただけてすごく安心したことがあります。そういう受け皿として「いいよ」と言ってもらえたら、ほっとしてお葬式に安心して行けると思います。

#### ○会長

受け皿というか、いつでもそういう環境があるということは安心ですね。保育所の受け入れはどうですか。保育所は長時間ですから、かなり日常的にそれは受けられて、なおかつ保護者からの期待というのはどんな感じですかね。

#### ○C委員

保育所は基本的に12時間開所で、朝の7時から夜の7時まで、午後は働いているお母さん、父親も含めて希望は満たせていると思います。ただ、ごく一部ですけど7時以降も預かってもらいたいとか、仕事の都合で7時に間に合わない方もあり、そういう場合は、職員が7時から7時半ぐらいまで居残って臨機応変に対応することがあります。

土曜日も夕方の7時まで預かってます。無いのは日曜保育だけですが、日曜保育は加西市では1カ所、多聞保育園で開設していますが、利用者は2人とか3人とかという状況です。

考えられるのは周知、PRが足りず、日曜保育の制度を知らないか、あるいは日曜までのニーズは加西市では少ないのではないかと思います。

○会長 D委員、保育所に夜8時や9時まで預かってほしいと思うことはありますか。

○D委員 ないですね。

○会長

一時預かりは、幼稚園でその受け皿を整備しておくことが大事かもしれませんね。稼働率や何人受け入れたかという実績評価ではなく、受け皿があるということが非常に重要な戦略かもしれませんね。尼崎市とか神戸市あたりの個別の意見を聞くと、夜間保育とか、保護者の就労状態によっては、もう少し深夜までとか、そういうニーズが出てくるかもしれませんが、加西市の場合はどうですか。

○C委員 都市部で深夜って確かに需要はありますが、加西市ではほとんどありません。

○会長

思ってるけど、それは出せないという何か。例えば、加西病院の勤務体制もいろいろありますよね。そういった方の場合にそのようなニーズを持ってらっしゃるケースがありますよね。

○C委員 病院は今、病院の中にあります。

○会長

ありますよね。私も承知しています。それ以外に自分の住んでる地域にもしあればということがひょっとしたら出てくるかもしれないけど。まあ、加西市はそういう意味では就労環境というのは割合一般的なので、子育て環境についてもそんなに偏ったニーズというのはないかもしれないし、個別にはあるかもしれない。

○C委員 夜間就労されてる方が少ないということですね。

○E委員

働く女性が増えていますね。私のところでも、直接の部下で、結婚されて子ども2人です。本当に大変だと思うのは、朝5時に起きて子どものお弁当をつくられている。仕事は大体5時10分には終わるんですが、やっぱり仕事をしてたら6時近くになる。帰ってからいろいろ支度されることを聞きます。私らの世代に比べ、今の若い方はそんなに給料が多いわけではないですし、どうしても夫婦で働かざるを得ない。そうなれば、当然会社の理解も必要で、特に小さい子どもさんを抱えておられるような方には、そういう方でも働ける環境をつくるのが非常に大事だと感じます。それを企業の親方、社長さん連中がよく認識しないといけないですね。それが1点。

もう1点は、この資料1の7頁、子育てへの不安や負担あるいは子育てがしにくいと思う理由の中で、5年前と比べたらどちらも増えているんですが、「子どもが安全な遊び場や児童館など子どもの居場所が身近にないから」というのは結構高いんですね。子育てがしにくいと思

う理由で、「子どもの遊び場所が少ない」と、これはどうなんですかね、行政で何か考えることはできないですかね。遊び場所がないというのは、学校で遊ぶぐらいしかないんですかね、このあたりは。

○会長

これは単なる一般的な印象なのか、それともどうですか。加西市は児童公園とか、そういうところの整備はされてるんですかね。

○事務局

別のアンケートでも、子どもの遊び場が不足しているという回答が多くあります。その意見は多いと受けとめてます。

○会長

潜在的にはそういう意見がずっと根強くあるということですよ。

○E委員

私の自宅の横に公園があります。街の中なんですけども。そんなに子どもが十分、まあ遊具が若干置いてありますが。私らの子どものころは山へ行って遊んだり、田んぼに行ってボール投げしたり、それが遊び場所やったんですけども。何が子どもにとっていい遊び場所なのか、私の年齢ではちょっと子育てというのは離れ過ぎているので、ぴんと来ないんですけども、どうなんですかね、そのあたり皆さんは。

○会長

今、加西病院があるような山なんかは昔は子どもたちにとって魅力的な環境だったんですけどね。

○E委員

そこに防空壕があって、よくあんな危ないところへ入って遊んでたなと思います。

○F委員

工場をつくろうとした大きなものですね。

○E委員

何をもって遊び場所かというのは確かに。今はそれも何かと危ない。

○会長

宍粟市（旧波賀町）では、地域で遊び場開放みたいなことをやるんです。高齢者で子どもがいないようなところでも、レンゲ畑を開放したり、田んぼを刈り取ったところを開放したり、きちっとした公園でなくても地域の方が、地域でそれなりの自分の土地を開放したり、庭を開放したり、セミとりにおいでとかそういうことをやっています。

それから、小学校や幼稚園の放課後の園庭開放とかってありますよね。あるいは公民館なども積極的に開放する。イギリスであればプレイマインダーという遊びを指導するおじさんとかお婆さんがいました。これは資格を持ってるんですけど、そのような子どもたちに対する健全な大人たちの仕組みがあればいいですね。

加西市の子育て学習センター、ねひめキッズを後で説明してほしいんです。まずこういったところが、かちっとしたところでなくても、インフォーマルな環境提供というのがあれば、遊び場が少ないというのも、どこでも子どもたちは遊べるみたいな姿が可能かなと思ったりもしますが。

ねひめキッズについて少し教えてください。

○事務局

就学前の子どもさんとその保護者の方が、事前登録も必要なくぶらりと気軽に寄れる子育て広場です。市外の方も利用できますし、その日突然行っても、その施設には相談員の方がおりますので、いろいろな相談対応ができます。普通にそこで一日遊んで時間を過ごしたりできます。ゆったりとお母さんと子どもが過ごすことができる施設です。

○会長                   それはどこにあるんでしょう。

○事務局                現在、閉園中の富田幼稚園があり、そこを園庭開放しています。

○会長

市域に点在している形だと各地域に対する公平な配備になりますよね。三田市の多世代交流館「ふらっと」というのをご存じでしょうか。そこは私が設計したんです。プログラムをね。高齢の方も来られたり中学生も来たり、もちろん赤ちゃんも来たり、いろんな人がそこに来るんですね。商業施設と一体的に市が多世代交流館をつくり、市内の人はもちろん、市外とかいろんなところから親子が来て過ごせる、そこにいろんなプログラムを開発しました。加西市のねひめキッズはそこまでのプログラムではないんですね。

○事務局

月ごとにイベントのスケジュールは組んでおりますが、そのようなプログラムはありません。

○会長                   子育て学習センターとねひめキッズとの協力体制はあるんですか。

○事務局                これまでは所管が別々でした。来年からは一体的に運営します。

○会長

これは大事ですよ。コラボレーション。どこかが音頭をとって上手に連携させて地域の子育て環境として提供していく、それは大事なソフト面でシステムづくりです。建物や人を配置するとお金がかかりますから、かけなくても知恵を出したら、いい環境になっていくかもしれませんね。

○F委員                賀茂もありますね。賀茂幼稚園のあれは何と言うんですか。

○G委員

放課後子ども教室です。賀茂の放課後子ども教室は、お母さんがおうちに、いる、いないに

関わらず、小学6年生まで希望すれば利用できるようになっていきます。今、子どもたちが群れて遊ぶことが少なくなっているため、そこに集まることで一緒に遊ぶ場所を提供できています。

毎日ではなくて、週に2日、曜日が決まっています、学校が終わってから6時までの時間帯でやっています。

○F委員

そのような幼稚園が下里とか富合に空いている。だから、今言われているそういう場所が実際あるということですね、あちこちに。

○B委員

富合校区ですが、1年生から3年生までは町内でしか遊べないんですね、放課後は。だから、4年生だったら小学校まで遊びに行けるんですけども、遠い子は自転車で1時間ぐらいかかります。

1年生や3年生の子は町が違ったら、小学校に遊びに行けないとかそういう決まりがあるので、低学年の子は行きたくても行けない、親がついていかないと行けないとか、そういうしがらみもあるんです。低学年の場合は、家で見るか同じ町の子と遊ぶことしかできない。自転車も町内でしか乗れない、他の町に行ったら町抜けと言われるので、そこでもめるんですね。

○F委員            どこの小学校もそうだと思うんです。往復の事故が心配だから。

○B委員

町内で仲のいい悪いとか、町内の女の子が1人、男の子と3人だったらもう遊べなくなるとか、そういう問題もあります。

○G委員

小学校低学年の間は自分の町だけで遊ぶ、中高学年になったら校区内は遊んでもいいという決まりがあります。だから、低学年の場合は、おうちの方で友達の家へ送ってもらえる足がある場合は行けるんですけども、今どこの学校も子どもの人数が少なくなり、町内だけだと遊び相手がない、同級生がない、女の子だけ男の子しかいないとか、そういったことが多いように思います。高学年になると自転車に乗って、学校へ遊びに来て、一緒に野球するとかそういう姿も見かけます。

○会長

なるほどね。淡路の話で恐縮ですが、由良をご存じでしょうか。そこに行きましたら以前から積極的に小学校を開放してるんですね。しっかり学校で勉強して、暗くなるまでここでしっかり遊んで帰らなさいという考え方です。だから、学校が終わっても学校にいれば友達がいっぱいいて、そこにいろんな子どもたちがいるから楽しいということですね。

○H委員

アンケートの結果で、経済的な理由という割合は減ってますが、まだ全体の割合としては占める割合が多いということで、仕事に復帰したり、仕事を続けられる環境をつくる必要があります。

なのかなとも思います。一方、子どもにとっては、子どもの数が少なくなって、友達も少ない中で親も共働きが多い中で家族で過ごす時間も少なくなってるのが現状なので、そういったところも踏まえながら子育て支援を考えられたらと思います。

○会長 高度成長期の人たちは給料が多いと先ほど言われましたが。

○E委員

恵まれてますね、比較的。大きな会社に勤められている都会の方は別にして、地元で働く若い方は給料は上がらないですね。

○会長

若い世代の人は、共働きでないと大変とおっしゃいますよね。私は団塊の世代なので、何とか一人だけ働いて、始末しながらですけど、まあやれました。今は2人働かないととてもじゃないけどやっていけないといいますね。子育て環境の難しさというか、預けようにも有料だと大変だし、時間もないし、地域全体でどのように受け皿を整備するかというのも大事な責任かもしれません。

○C委員

質問があります。資料1の8頁(2)保護者の就労状況について、下から4行目に「今後も育児家事介護に専念したい(就労の予定はない)」は25%ですね。未就労の母親が全体の14%ですから、この14%のうちの25%が今後も家事育児に専業主婦を続けたいということですね。ということは、全体の3.5%しか仕事をせずに行こうという人はいないということですね。これは、ほぼ全員、96.5%は何らかの形で共働きという形で仕事をしたいと思ってる、というふうに受け取ってよろしいんですか。

○会長 資料の読み取りに手間がかかるようです。

○C委員

それはまた後で。共稼ぎしやすい環境というのをつくっていくのが大事ですね。先ほど言われたように今共稼ぎをしないと生活レベルが維持できない。

○E委員 企業も給料を上げられない。

○会長

そうだとすると、働き手が多く必要だし、2人で働けば何とか。そういう現実があるとする、やっぱりそこに補完的な子育て支援環境というのをしっかり組み込んでおかないと、いろんな問題が発生するということはあるんですよ。

○C委員

私の読み取りがそうだったら97%の方は何らかの形で仕事をしたいと思っているのでは。その中での子育てしやすい環境を加西市でつくっていく。

もう一つ、正社員とパートの差があります。育児休業を取れるというのはやはり正社員の特権なんですよ。ほとんどパート・アルバイトでは育児休業が取れない。育児休業を取得したのは父親が2%と少ない。母親は28%で3分の1に近いが、おそらくこの28%はほとんど正職員待遇の人だと思います。もっと数が多いパートタイムあるいはアルバイトの方は、取りたくても取れないので、結局やめるしかないとか、あるいは状況が悪くなった後にやめる。

辞めてまた子どもがある程度大きくなったらもう一度就職するM字曲線で、小学生の親になると就労する親の数が増えてます。パートでも50%働いてます。

正社員とパートの差はどうしようもないところもありますが、圧倒的にパートタイム、アルバイトの方が多いわけですから、子育て支援にも格差が出るところをどのようにやりやすくするか。

#### ○会長

働き方の条件は会社が決めることだと言われるかもしれませんが、働き方によって休みが取れる取れないというのは給料だけじゃなくて、子育てにかかる時間の確保ができるかできないかという、ぎりぎりのところの判断ですよ。やはり企業に対する啓発活動ということも大事です。

兵庫県はベストカンパニー賞というのを一時期やってたんです。いい事業所、いい会社というのは、家族・子育てに優しい、子育てに情熱を持っている社員、そのことを支援していく企業の責任があるということを兵庫県で広めていました。ぜひ、加西市もいろんな形で事業主さんに啓発活動することも、間接的ではありますが子育て支援環境につながると思います。

#### ○事務局

先ほどのC委員の質問で、今は働いていらっやらない母親、14%ですね。そのうち25%がそのまま今後も働かないということで全体の3.5%ですね。言われた通りです。

#### ○I委員

資料1の4頁(5)子どもが病気のときの対応で、利用できなかったが6割ということで、実は明石市の子育て支援会議に出てたんですが、明石市でも病児・病後児保育が必要であるという意見が多かった。加西市には施設がありますか。

○事務局 病後児保育施設があります。

○I委員 ここに小児科に併設した施設が望ましいとあります。

○会長 4頁の指摘ですよ。

#### ○I委員

以前、県にいるときに病児・病後児のニーズは高いので、何とか普及できないものかと考えていました。加西市のアンケートでも休んで対応した方が多く、熱がある子を保育所が預かり、お母さんはどっかに行かれてしまうのでは、病院じゃないと対応できない、あるいは病児保育でない場合、病院の診察を受けて大丈夫という返事をもらわないと預かれないなど、結局、通



常の出勤ができないので、それだったらもういい、休むということになっているんだろうと思う。

そういう意味では休みやすい環境にもっていくべきとも思うが、ただ、セーフティネットとしてそういう施設はあるほうがいい。

#### ○J委員

資料1の8、9頁の(3)放課後の過ごし方で、学童保育は3年生までを対象にしていますが、4年生から6年生までの希望も相当あって、実際27年度からそのように移行するという事なんですけど、適切な移行かなと思います。

○I委員            そうなった場合、例えば教室の収容力ですが、大丈夫なんですか、施設的には。

#### ○事務局

6年生まで対応すると2割増を見込んでます。ある校区によっては、入りきらないところがあって一斉に6年生まで含めるのは物理的に難しい状況にあります。

#### ○会長

小学生だと、塾とかおけいごごとに通っている子どもたちが多いですよね。塾の人たちもそういう子どもたちの健全育成や子育て支援をしてらっしゃるところもありますね。例えば土曜、休日等も開放して、野外活動したりとか、近所の公園に出かけて行って調べたり、子どもたちの交流を通して学習したり、結構やってらっしゃるところもありますね。

加西市も塾がどの程度あるかわかりませんが、若干そういったところも子育て支援、特に小学校あたりでは子育て支援環境のネットワークの中に、入っていただくようなことも大事なかなと思います。放課後來るわけですからね。寂しい子どもたちをしっかりと受けとめて、勉強だけではなくて子どもたちの仲間づくりも一生懸命やってらっしゃる。そういう点、公立学校の先生冷たいよな、学校から帰ったらもうおれ知らんぞ、みたいなというようなことをちょっと言われることもあります。加西市ではそんなことないと思います。教育委員会、学校の先生方も一生懸命やってらっしゃいますよね。

#### ○K委員

私はボランティアグループで、主に子育て学習センターとねひめキッズ等で、お誕生日会とか、ちょっと催しがあるときに歌を歌ってあげたりとか、絵本を読んであげたりとかという、そういう活動をさせてもらっています。

私の子どもが小さいとき、今はもう中学生ですが、ずっと公民館の子育て学習センターにお世話になっていました。そのときのお母さん方は、近所に同じぐらいの子どもを持つお母さん方がいないので、お母さん同士の友達をつくったり、情報収集したりするために来られるお母さんが多かったんですね。

最近それが変わってきまして、おばあさんが何人か来られてるんです。何で、おばあさんなのかと思って聞いてみたんです。そしたら、お母さんがお仕事に出られて、保育園に預けるにはお金もかかるし、家で見ようと思っても遊ぶ場所がないんですね。近所に子どももいないこともあり、今までだったら、おばあさんが近所を連れて歩いて、田んぼとか公園とかで遊ば

れていた場所もなくなっているみたいで、おばあさんも困って子育て学習センターに来られて、遊ばせてる方が多いんです。学習センターの使い方も昔と変わってきたのかなという気がします。

○会長

ボランティア活動してこられたんですかね。ありがとうございます。子育て学習センターのインストラクターですか。

○K委員

違います。ただ行って子どもと一緒に歌を歌ったり、絵本を読んであげたりとか遊ぶだけなんです。

○会長

私の子どもが小さいとき、ご近所で大富豪の社長さんがいらっしやいましてね。その駐車場に車が3台ぐらい入るんですよ。「昼間、車がないから私の空いてる駐車場で近所の子どもたちみんな遊んでいいよ」と言って、これもささやかな個人のボランティアな子育て支援かなと思います。

ガレージを開放したり、それから六畳一間を開放したり、地域で今度はあなた、来週は私のところの庭を開放しますとか、地域でそういうオープンプランニングのネットワークをつくる地域活動もありますよね。先ほど波賀町の例で、うちの庭先で遊んでいいよとかうちの田んぼで遊んでいいよとか、おばあちゃんも久しぶりに子どもたちを見ると、この地域には子どもがいないから幼稚園の子どもたちや小学校の子どもが来ると、うれしくてしょうがないという、自分の子ども、孫は遠くに行ってるけども、地域の子どもたちが来ると大きい家族やなどと言って、子どものいない地域に賑わいが生まれ地域が元気になっていきます。

それから、これはある市長さんの話です。地域の大型店、この地域でもマックスバリュがありますけど、大型スーパーには多目的室というのがあって、そこで自由に親子が集える。店の中にそういうオープンスペースを提供すると、客が来ないよりもいろんな人が来てやって、企業にとっても利潤につながり、社会貢献にもなるということで、市長さん自らが企業に提案された事例があります。

加西市もそんな大型店舗があれば、ちょっとしたスペースでいいですよ。ちょっとした親子がそこに集まってお茶を飲んだり、持ち寄ったお茶で子育て談義したりとか、ふらっと立ち寄れるオープンスペースを確保し、地域挙げてのコラボレーションができれば、子どもを生むなら絶対加西市、子育てするなら絶対加西市、ああ加西市でよかったとなっていくのかもしれないね。

○副会長

私も共働きなんですけど、子育て支援をする人たち、子育て支援をする側の人たちも皆さん共働きなので、保育所の先生方も幼稚園の先生方もそうですけど、そうした支援する側の人のサポートも大事なんじゃないかなと思いました。

2つ目は、遊び場の提供に関して私も他市でいろいろ話を聞いてますと、遊び場の提供をする人たちを子ども・子育て支援の枠でやるのか、すなわち幼稚園、保育所、小学校、こども園

を含めて子ども・子育て支援の枠でやるのか、それとも地域の子育て支援事業でやるのかというのは、ある地域はすごく充実しててむしろ過剰に出されていて、ある地域は全くぽっかり空いているということがあるので、その辺りのバランスも考えないといけないと思いました。

3つ目は、地域の規模が縮小していて子ども減少しているという課題はすごく大きな課題なので、子どもが近所にいないという状況に対して地域をどのようにつくっていくかというのは、長期的な課題として啓蒙していかないといけないのかなと思いました。皆さんの意見を聞いて、私の印象です。

○会長 加西市には地域の子どもの人数格差というのは相当ありますか。

○D委員

私の宇仁地区が一番少ないんじゃないですかね。小学校は70名ぐらいしかいないと思うんです。

私ごとなんですけど、宇仁小学校には学童保育がなくて、放課後子ども教室はあるんですけど、それは4年生、5年生、6年生が帰るまでの1時間ぐらいしか見てくれないので、私は外に働きに行きたいんですけど学童保育がないというので、ちょっと今ひっかかっているんですね。どうしても学童保育をつくってほしいんですけど。

○会長

少ないからしてないというよりも、あるというのはね。稼働率や集客率の問題ではなくて、やっぱり受け皿があるというのはすごく大事だね。

○D委員

そうです。利用したいと言う人は結構いるはずなんですけど、イメージ的に宇仁地区だとおじいちゃんおばあちゃんが一緒にいるから、見てくれる人がいるだろうというそういう意見が多くて。

○会長

宇仁地区は私も大好きで、ブドウもったり、結構地域の人熱いんですよ。D委員おっしゃったあたりも重要なポイントだと思いますよね。

○C委員

ちょっとおもちゃの話を。子育て支援施設でのおもちゃにどれぐらい注意が払われているのかなという思いがあるんです。子どもが安全な場所があるというのはまず大事ですが、場所だけあっても、子どもって遊べないんですよ。やはりそこに、いいおもちゃがあれば遊びます。いいおもちゃになればなるほど、長く遊べるし、余りよくないおもちゃというのは、しばらく遊んですぐ飽きる、2、3日で飽きるんですけど、いいおもちゃは値段は高いですが、深みがあってずっと遊べます。いいおもちゃを用意するということは、施設をもっと利用してもらおうとか、あのおもちゃで遊びたいから行きたいとなりますので、そういう視点は必要ではないかなと思うんです。

### ○K委員

公民館に置いてあるおもちゃが、全部古くなってしまって、結構ぼろぼろなんです。子どもが口に入れたりするのに、どうかなというものもたくさんあるんですね。買い替えとかも全然進んでないみたいで、やはり壊れたから捨てていく。数が減る一方で、いいおもちゃというのをもっと入れていただいたら、お母さん方も喜ぶのではないかなとは思いますが。

### ○会長

その財源の提供はどこかと。ちらっと見ると、やはり市のほうでしょうかね。あるいは、どこか企業が財団をつくってどーんと提供するとかいろいろあってもいいですよ。

### ○事務局

これまでも大型遊具を整備しようという話がありますが、確かにおもちゃの視点は乏しかったと思います。

### ○会長

今、市が行うということではなくて、意見としてこういうことも子育て支援のときには、ちょっと課題だなとメモしておきながら、市が全部丸抱えじゃなくて、いろんなところのコラボレーションとして、子育て支援環境を充実していけば素晴らしいことだと思いますよね。

加西市の事業者からそのような提供があるといいですね。そうすれば、市が子育て支援ベストカンパニー賞として表彰するんです。それは励みになりますよね。

### ○J委員

遊び道具なんですけど、学童保育の教室を回ってましたら、昔からの伝承遊びというんですか、そういうのは人気がある。例えば、コマ回し。いきなり最初からうまくコマが回らない。だから、ある程度自分が苦労して達成できた喜びが生まれる。

また、将棋も学童保育で非常にはやっています。お金もかからないし、昔、私たちの世代は将棋をやっていましたね。歩回しとか、あるいはいっぱい積んで順番に音を立てず抜き取っていくとか、経験者が小さい子どもに教えていくには非常にいい。オセロもいいが将棋は非常におもしろいと思う。

### ○会長

これは幼稚園、保育所、小学校でもやっているとところがあるんですが、地域の遊び名人をリストアップするんですね。もう何でもいいんですよ。お手玉の名人とか、もちろんコマも、サワガニを取る名人とか、もういろんな名人がたくさんいらっしゃるわけですよ。そういう方々に時間の余裕があれば来ていただくとか、子どもたちが弟子入りするとか、まさに昔とった杵柄じゃないですけど、新たにお金を投入しなくても、子どもたちが喜んでくれるならば、そんなことも誘いかけてみるのも大事かもしれませんね。地域の文化とか加西市に住んでることの喜びや意義を見いだせると思うんですよ。たくさんいらっしゃると思うんですよ。ちなみにJ委員の名人芸は。

### ○J委員

名人芸じゃないんですけど、私は囲碁が好きですので、日本では人気は衰退といますか、中国、韓国が今トップになってますので、若い子どもが一人でも興味を持ってくれたらなと思いますね。

#### ○会長

三田市の多世代交流館でも囲碁をやります。80歳代ですけど囲碁やるときはすごいですね。中学生の子どもたちが来て、おじいさん教えてくれとって素直ですよ。もう、そこに集まるんですね。その子どもらが幼い子どもにも教えていったりね。加古川の幼稚園では大きいコマや小さいコマを腰の曲がったおじいさんが、自分の得意なことをやると腰が伸びてるんですね。不思議ですよ。

おじいちゃんでもパソコンに長けてる人もいますよね。芦屋では、外国語を得意とするおじいさんもいます。加西市にもたくさん遊び名人がいらっしゃるし、そういう名人を発掘して、それをささやかにボランティアで提供していただくということも大事な環境かなと思うんですね。

#### ○G委員

小学校では、今おっしゃったようなことをしております。1年生の生活科で伝承遊びの勉強がありまして、今のお父さんお母さんの世代は、コマ回しやあやとり、お手玉とか余りしたことがなくて、その上のおじいちゃんおばあちゃん世代の方に教えていただきます。

学校にボランティアで安心・安全の見守りのために毎日来てくださっている「わっしょいスクールの応援」の方々がほとんどそういった年代で、先日も、わっしょいスクールで来ていただいている方々に先生になってもらい、伝承遊びを教えてもらいました。そういった方々が、例えば放課後の子ども教室のゲストティーチャーになっていただくとか、そのような広がりも、お話を聞きながらできるのではないかと思います。

#### ○会長

わっしょいスクールですね。いいですね。学校でお世話になり、これがきっかけとなって、またスーパーとか地域で、あのおじいさん、おばちゃんと声をかけ合う関係性ができればいいですね。

#### ○G委員

子どもたちが卒業しても中学、高校生になっても声をかけてくれるとおっしゃってました。

#### ○会長

姫路市の夢前川沿いの例ですが、高齢者だけが空き地でゲートボールしてるんじゃなくて、そこに幼稚園がジョイントして、高齢者の方が子どもたちにゲートボールを教えることがありました。子どもたちと高齢者とがとても近い距離になったそんな感じがしました。ただ面倒を見るとか、世話するというだけの子育て支援ではなくて、それに留めず育ち合う環境づくりを子育て支援のプログラムの中に視点として組み入れていいと思います。小学校の場合ほうまくいってるんですね。

#### ○G委員

高齢者の世代の方々が子どもに教えるときは、非常に広い心で接してくださっています。その方々の元気にもなっています。

#### ○会長

学校でできる子育て支援ですね。今回のデータからいろんな広がりも出てきそうなんですけど、細かい分析はまだこれからです。今後予定としてはどう整理されていきますか。

#### ○事務局

アンケートは細かく分析を行って、報告書にまとめます。皆様からアンケートを通していろんなご指摘をいただいておりますので、そういった意見も計画の中に盛り込んでいきたいと考えてます。次回は計画のおおよその骨子が固まるころに、また再度皆様にお諮りしたいと思います。

#### ○C委員

一つだけいいですか。保育料の軽減という視点も入れていただきたいと思います。保育料はここ20年ぐらい下がってはいないです。親の所得はここ15年、20年でかなり下がってきておりますので、保育料の割高感というのは強くなってきてます。90年代とか2000年代の初めてしたらそれほどでもないと思いますが、やはり今は高い。

保育料は16段階に分かれて、親の所得によって一番安い方は無料、次は数千円、それからどんどん上がって、一番高い方だと6、7万円ですね。一番高いところは払える方です。これは公務員とか、お医者さん、学校の先生とか。5、6万円の保育料でもそれほど苦なく払うことができる。下の方の数千円のところも手厚くなってます。

真中に位置する2万円とか2万5千円のこの層が一番人数が多く、負担感も強い。昔の2万5千円と今の2万5千円は少し違うと思うんですね。その辺で加西市も5万人都市の再生が一番大きなテーマですが、子育てしやすい街という意味なら、たくさんの方が子どもを預け、そして働きたいということですので、少しでも保育料を下げ、親の現在の経済状態に合わせる方向に行けないものかと思います。

#### ○会長

地域によっては11段階とかいろいろありますけど、そういったところも調整するということが、それから兵庫県のある市でも幼稚園の保育料について手をつけてますので、保育所と幼稚園についても考える必要があろうと思います。公立、私立も含めてそういったところもちょっと検討課題になるかもしれませんね。もちろん主流は保育所かもしれませんが、そういったところで。

#### ○I委員

国の計画の中でまだ詳細ははっきりしていませんが、検討中ということで、それぞれ地域独自で軽減する事業も含まれるようなので、また国から示され出てくると思います。

#### ○会長

キーワードは軽減化ということで、これを視野に入れて検討していくことも大事ということですね。次の課題についても事務局から提案いただき、それを待って次回を設けるということで、我々も準備するというので、どうでしょうか。

#### ○事務局

後日、ワークシートの形で、今日ご意見いただけなかったことを提出していただければと思います。アンケート分析が4月ぐらいになると思います。5月の末時点で第3回目の会議を開催させていただきます。

(次回日程 平成26年5月26日(月)、18時 市役所多目的ホール)

### 5. 教育次長 挨拶

本日はアンケートをもとに、預かり保育、病児・病後児保育、学童保育等の拡充について貴重なご意見をいただきました。また、子どもたちの遊び場所と申しますか、遊びについて遊具とかおもちゃについて、これも貴重なご意見をいただきました。さらには、経済的な理由、これが依然として子育て支援の課題にあること、地域の子どもの減少、さらには共働きによる子育て環境づくり、これを多方面で構築していく必要があるというご意見をいただいたかと思えます。

また、子育ての地域の方との支援についてもご意見をいただき、子育て支援に関わる公共施設のあり方についてもご意見を頂戴しました。本当に多方面からご意見をいただきました。

今後、このご意見をもとに、事務局でこの子ども・子育て支援事業計画の骨子案を提案させていただきます、さらに総合的にこの子育て支援が推進できますようご意見を頂戴したいと思います。今後ともよろしく願いいたします。本日はどうもご苦労さまでした。ありがとうございました。